

# アフターサービス

- 万一故障の場合は、お買い上げの販売店、または弊社へこの商品の品名および故障状況をくわしくご連絡の上お申しつけください。
- 保証期間内の場合は、保証書の提示が必要となります。

# 保証

- 保証内容につきましては、同封の保証書をご覧ください。
- 保証期間終了後の修理については、お買い上げの販売店、または弊社へお申しつけください。  
修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有償修理いたします。

# 仕様

フレーム	アルミ
背・座アウターシート	生地：ナイロン
	クッション：発泡ウレタン
背・座インナーシート	ナイロン
レッグサポート	ナイロン
アームサポート	ウレタン
サイドガード	樹脂
グリップ	エンボスくり抜きタイプ
バックサポート	テンション
背折れ	あり、レバー式
足台可動	固定
フットサポート	ポスト式フットサポート 黒
キャスター	6 "(黒) ソフトフォーミング
タイヤ	エアータイヤ
ドラム	なし
駐車用ブレーキ	ベルト駆動用引き式 タッグルブレーキ

単位:mm	
全長	985
全高	855
全幅	560・580・600
シート幅	380・400・420
前座高	435
バックシート高	380
シート奥行き	400
アームサポート高	230/250/270/290/310
レッグパイプ長	380~
後座高	410
キャスター車輪	6 インチ
駆動輪	14 インチ
折り畳み時 全長	1,000
折り畳み時 全高	730
折り畳み時 全幅	380
重量	15.0 kg

車いすの廃棄については、最寄りの行政担当窓口におたずねください。

製造元



〒457-0863 名古屋市南区豊三丁目 38 番 10 号

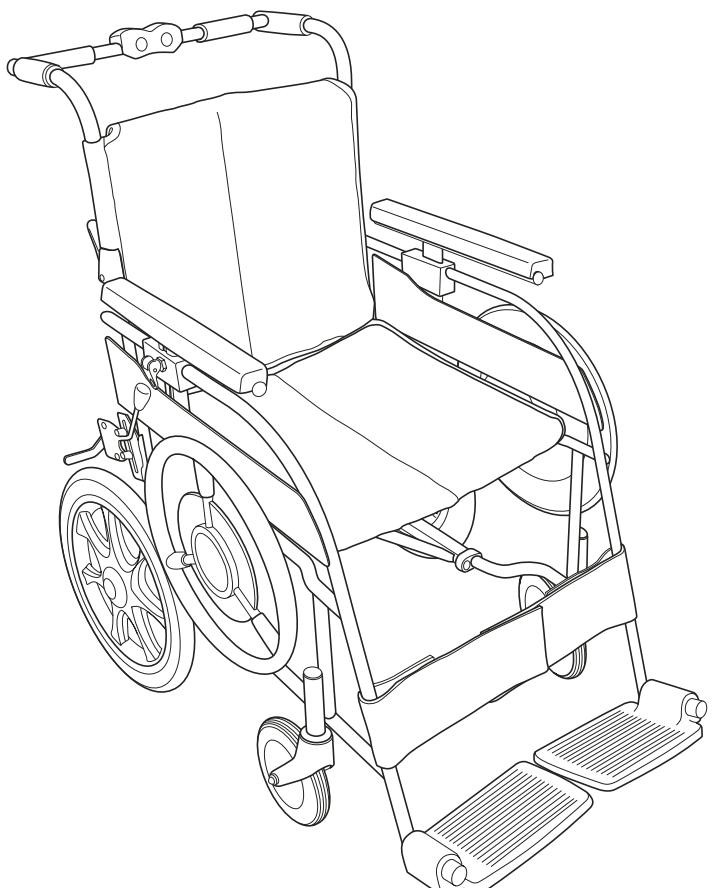
1202-001

# ベルト駆動 MB-43N 取扱説明書

より快適に車いすをお使いいただくために

## はじめに

この度は、弊社製品をお買い求め頂き、誠にありがとうございます。  
ご使用前に本書を必ずお読みになり、十分に理解をした上でお使いください。  
本書はいつでもご覧になれる所に大切に保管しておいてください。使用者の身体の状態・環境の変化に合わせて、必要なときに本書をお読みください。



※本書で使用しているイラストは、ご購入いただいた製品と異なる場合があります。

## 目次

安全上のご注意	2
各部のなまえ	5
使いかた	5
ブレーキのかけかた	5
開きかた / たたみかた	6
シート装着	8
乗り降りのしかた	8
各部の調節のしかた	10
アームサポートの高さ調節	10
フットサポートの高さ調節	10
背シートの張り具合調節	11
操作のしかた	12
使用上のご注意	13
保守・点検	13
お手入れ・保管について	13
走行上の注意	14
段の上がりかた	14
段の下りかた	14
困った時には	15
アフターサービス	裏表紙
保証	裏表紙
仕様	裏表紙

# はじめにご確認ください

本製品購入後に、はじめて梱包箱をあけるときに、下記のものすべて入っていることを確認してください。

- 車いす本体
- アウター背シート
- アウター座シート
- レッグサポート
- 取扱説明書（本書）
- 保証書
- 工具（スパナー：2ヶ、5mm・4mm・3mm 六角レンチ各1ヶ）

## 使用目的

本製品は室内向け手動式車いすで、一人乗り用です。  
これに搭乗しての移動と休息を目的としています。

日常生活用に設計されており、特殊な使用目的（スポーツ・入浴など）のものではありません。

## 特徴

本製品はベルト駆動方式を採用することにより、より楽な姿勢・少ない力での操作が可能となります。また、室内向けの自走タイプになります。屋外で使用される場合は、手押しハンドルを利用して介助者が操作をおこなってください。

## 安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。この取扱説明書では、お使いになる人や他の人への危害・物的損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを次の表示と記号を使って説明しています。表示と記号の意味をよく理解したうえで本文をお読みください。

### 【表示の意味】



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが予想される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、重傷を負う可能性が予想される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性および物的障害の発生が想定される内容を示しています。

### 【記号の意味】



危険・警告・注意を促す内容があることを告げるものです。



禁止の行為であることを告げるものです。



行為を強制したり指示する内容を告げるものです。



スピードを出さないでください。  
スピードが出ているときに急カーブを走行したり、急ブレーキをかけたりすると、転倒して事故やけがにつながる恐れがあります。



自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。  
下り坂において介助をする時は、後ろ向きにゆっくり降りてください。  
下り坂において自走の時は、自走用ハンドルを使い、スピードを落とし、必ず前向きで降りてください。不安な場合は助けてもらってください。



乗り降りの際にはフットサポートに乗らないでください。  
後車輪が浮き上がり、転倒する恐れがあります。



乗り降りの際  
フットサポートに  
乗らない

各部を調整する場合は平坦な場所で行ってください。  
車いすが動きだし、事故やけがにつながる恐れがあります。

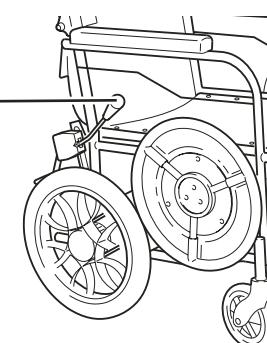
乗り降りの際に、上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。  
けがをする恐れがあります。

使用する前に、両側の背折れジョイントが確実にロックされていることを確認してください。  
ロックされていないと、使用者が後方に転倒する恐れがあります。

アームサポートフレームやアームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。  
アームサポートのロックが外れ、けがをする恐れや車いすが破損する恐れがあります。

車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。  
坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。

手押しハンドル、本体フレームおよびバックサポートのポケットに重いものを吊り下げたり、入れたりしないでください。  
過度の荷物はバランスを崩し、転倒する恐れがあります。



駐車用ブレーキの  
レバー

車いすの分解、フレーム構造を変更するような改造は行わないでください。  
製品の強度や耐久性が損なわれ、転倒など事故やけがにつながる恐れがあります。



この車いすは一人用です。二人以上の乗車や、目的以外での使用はしないでください。



折りたたんだ車いすを開く時に、シートパイプを握って押し下げないでください。  
手をはさみ危険です。



## ⚠ 注意

- !** 最大体重（積載物も含む）は 100 kgになります。体重制限を守って使用してください。
- !** 車いすをたたむときは、シートパイプを握らないでください。手をはさみ危険です。
- !** 使用者が乗車中は、背折れの操作は絶対に行わないでください。背折れのヒンジ部分で手や腕をはさむ恐れがあります。
- !** 背折れジョイントなどの可動部に指や身体をはさまないよう注意してください。
- !** 走行中、足がフットサポートから落ちないようにしてください。
- !** 走行中、身体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- !** 操作中に異常な音や振動が発生したら、即時に使用を中止してください。事故やけがにつながる恐れがあります。
- !** 方向転換やバックをする際はゆっくり操作してください。
- !** 介助者が操作される場合は、使用者が自走用ハンドルに触れないよう配慮してください。指を挟む可能性があります。
- !** テンションバーを押手として使用しないでください。
- !** 使用する前に駆動輪・キャスター・駐車用ブレーキ等のネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- !** アームサポートの高さを調整した後は、必ずロックされたことを確認してください。
- !** フットサポートを足で上げる場合は、素足では行わないでください。けがをする恐れがあります。
- !** フットサポートの下には足を入れないでください。足を地面でこすったり、フットサポートやキャスターなどに足をぶつけてけがをする恐れがあります。
- !** フットサポート下面は地上より 50mm以上あげた状態で使用してください。
- !** 暖房器具にタイヤを近づけないでください。タイヤの空気が膨張し、大きな音をたててパンクすることがあります。
- !** 段差のあるところを上り下りするときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり上り下りしてください。車いすの破損や故障の原因となります。
- !** 車いすを自動車に載せる際および自動車から降ろす際は、車いすに大きな衝撃を与えないよう、ゆっくりと静かに降ろしてください。車いすの破損や故障の原因となります。
- !** シンナー、ベンジン等の溶剤は、使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。

## 各部のなまえ

下図は標準仕様車です。車いすによっては、装備や形状が異なります。

格納式テンションバー

背折れジョイント

サイドガード

駐車用ブレーキ

自走用ハンドル

テッピングレバー

駆動輪

キャスター

フットサポート

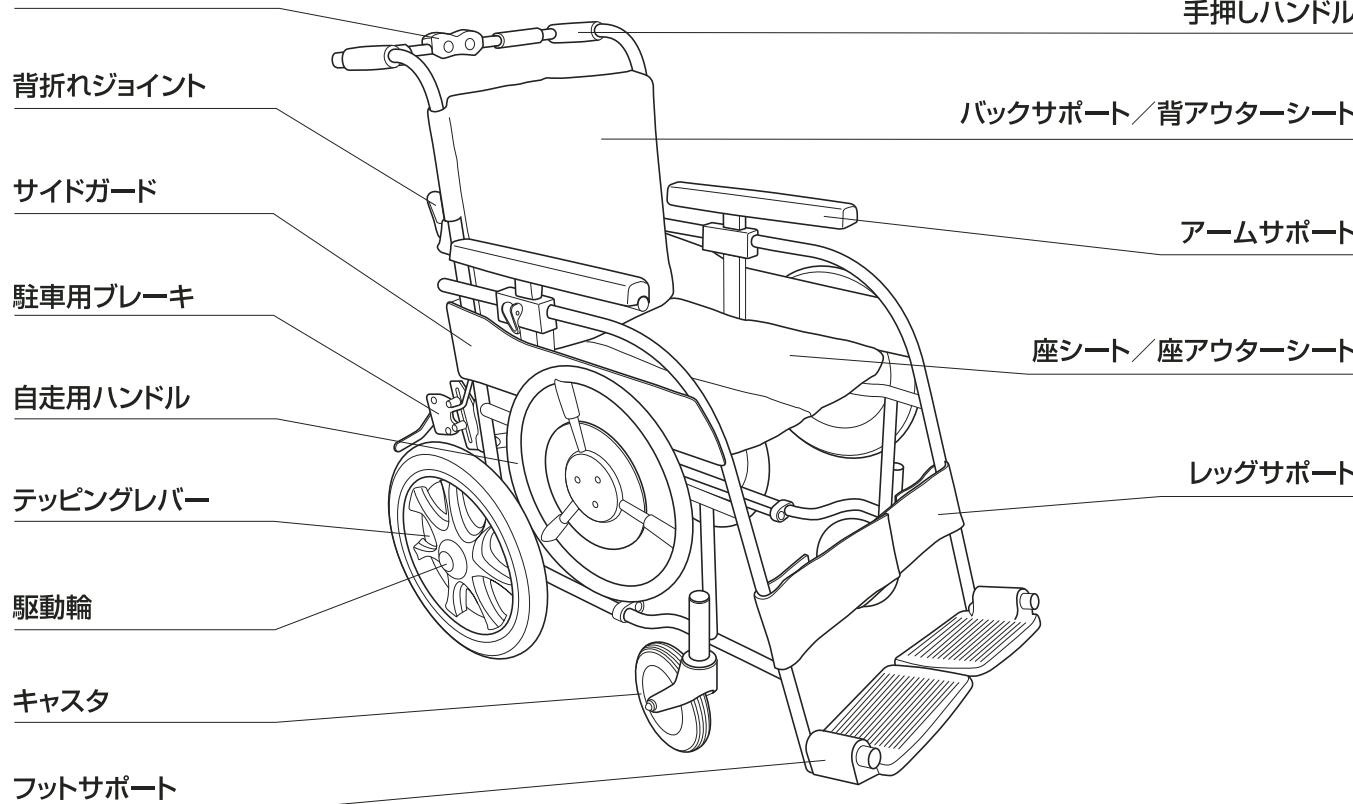
手押しハンドル

バックサポート／背アウターシート

アームサポート

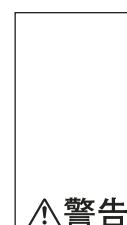
座シート／座アウターシート

レッグサポート



## 使いかた

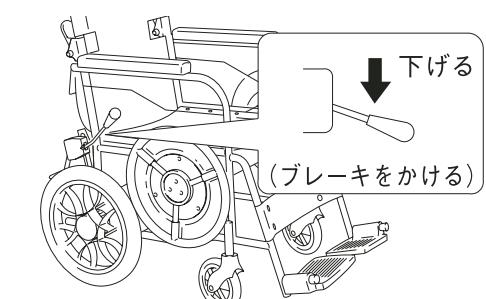
### ブレーキのかけかた



- ・乗り降りの際および停止時には、必ず両輪の駐車用ブレーキをかけてください。ブレーキがかからないと車いすが動きだし、衝突や使用者の転倒事故につながる恐れがあります。ブレーキレバーは、ブレーキレバーが止まる位置まで確実に操作してください。
- ・乗り降りの際にはブレーキレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒する恐れがあります。
- ・車いすを駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道等の傾斜のある場所では、駐車用ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながる恐れがあります。
- ・タイヤの摩耗に注意してください。タイヤが摩耗すると、駐車用ブレーキが効かなくなる場合があります。ブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。
- ・走行中に駐車用ブレーキを使用しないでください。転倒などの事故につながる恐れがあります。

### ● 操作のしかた

左右の駐車用ブレーキレバーを下げるときブレーキがかかります。ブレーキレバーを上方に戻すと解除されます。



## 開きかた/たたみかた

※背アウターシート、座アウターシートを取り外して折りたたむとより小さくたたむことができます。

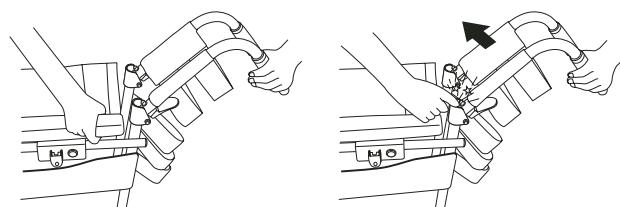
### △注意

- シートパイプを握って押し下げないでください。手をはさんでがをする恐れがあります。
- 必ずブレーキをかけて操作を行ってください。
- 背折れジョイントの開口部に手や指を近づけないでください。

### ● 開きかた

#### 1 手押しハンドルを両側とも上げます。

\*開口部に手や指を近づけないでください。



手押しハンドルを両側とも上げる

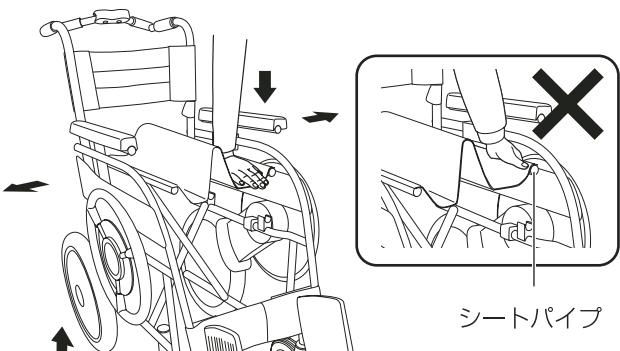
手をはさむおそれあり

#### 2 手押しハンドルを持って、軽く左右に開きます。

#### 3 片側の駆動輪を少し浮かせて、その状態を保ちます。

#### 4 駆動輪を浮かせていない側の座シートの表面を、手の平で押して開きます。

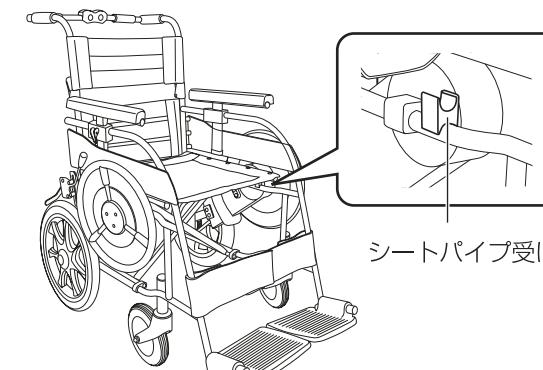
\*シートパイプを握らないでください。



片側の駆動輪を浮かせる

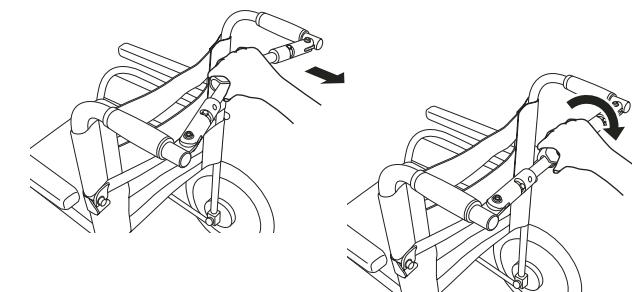
### 【ポイント】

シートパイプ受けに、シートパイプがしっかりとまっていることを確認してください。  
\*しっかりはっていない場合は、シートパイプの中央付近を押してはめてください。  
押す時は、シートパイプの先端を押さないでください。フレームが変形する恐れがあります。



シートパイプ受けにシートパイプをはめ込むことで、ガタつきをなくす構造になっています。

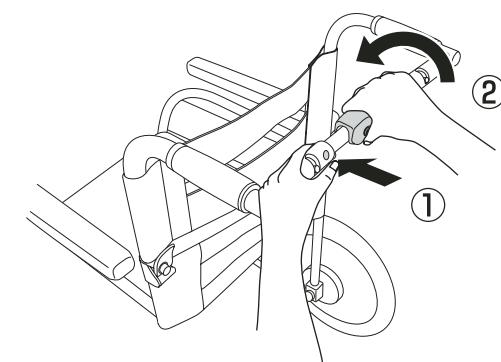
#### 5 テンションバーの中央部を軽く手前にひき、カチッと音が鳴るところまで手前に回転させます。



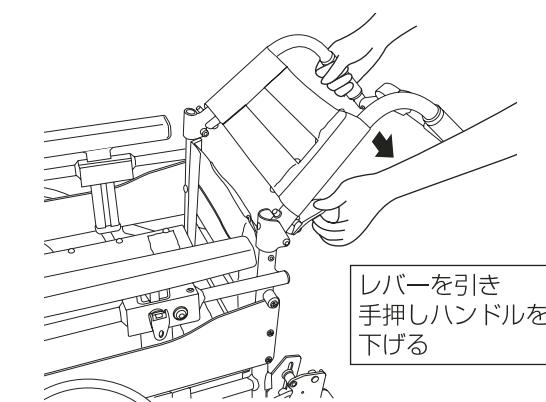
### ● たたみかた

#### 1 車いすのブレーキを両輪にかけておきます。

#### 2 テンションバー左側にある金色のボタンを押しながら、テンションバーの中央部を奥へ回転させます。 テンションバーの中央部を軽く押し、たたんでおきます。

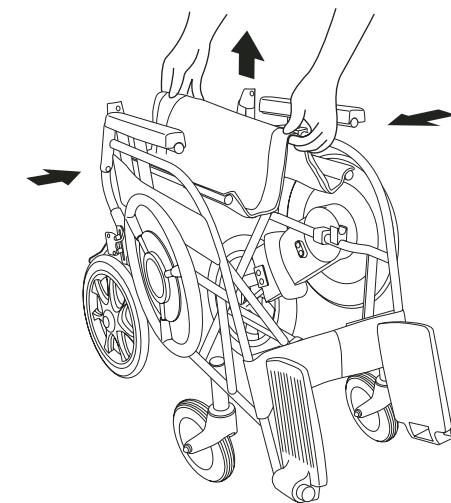


#### 3 図のように、手押しハンドルを両側とも下げる。



#### 4 フットサポートを両側とも上げます。

#### 5 座シートの前後を持ち上げて、シートパイプを引き寄せます。

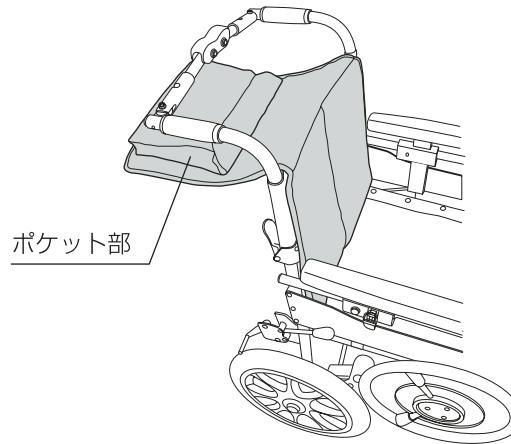


#### 6 左右のアームサポートを外側から内側に押し、座シートを折りたたみます。

## シート装着

**△注意** 面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、装着が弱くなりますので取り除いてください。

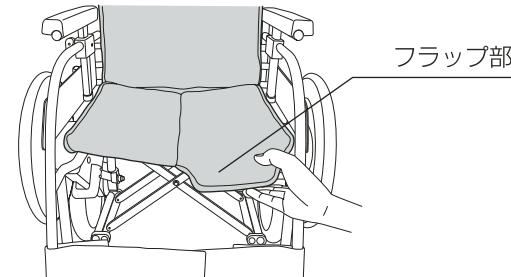
- 1 ポケット部を後ろにし、折り目部分を上にくるように背アウターシートを車いす本体にあわせます。



- 2 背アウターシートと背インナーシートの面ファスナーを貼り合わせます。

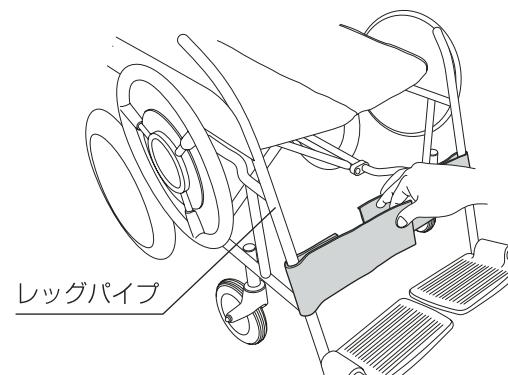
- 3 座アウターシートのフラップを前側にし、車いす本体のインナー座シート表面の面ファスナーと貼り合わせます。

- 4 フラップ部を折り曲げ、インナー座シート裏面の面ファスナーと貼り合わせます。



- 5 レッグサポートの端を車いす本体レッグパイプに巻きつけ、面ファスナーを貼り合わせます。反対側も同様に行います。

- 6 左右レッグサポートの両端の面ファスナーを貼り合わせます。



## 乗り降りのしかた

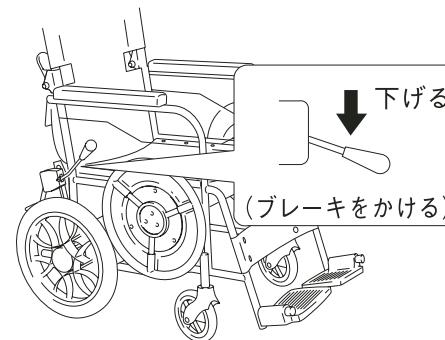
以下の方法はほんの一例です。使用者の症状・使用環境にあわせてご利用ください。

### △警告

- ・乗り降り時は、必ず駐車用ブレーキをかけてください。車いすが動きだし大変危険です。
- ・車いすに乗り移る際、フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをする恐れがあります。
- ・上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをする恐れがあります。

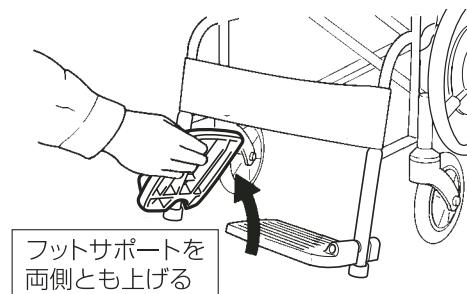
## ● 乗りかた

- 1 駐車用ブレーキのレバーを下げる、両輪のブレーキをかけます。

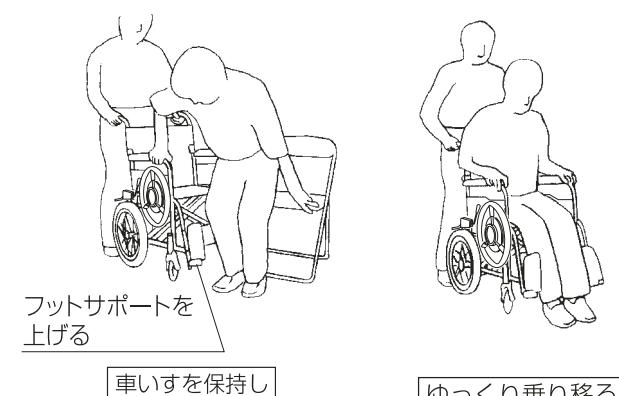


- 2 フットサポートを両側とも上げます。

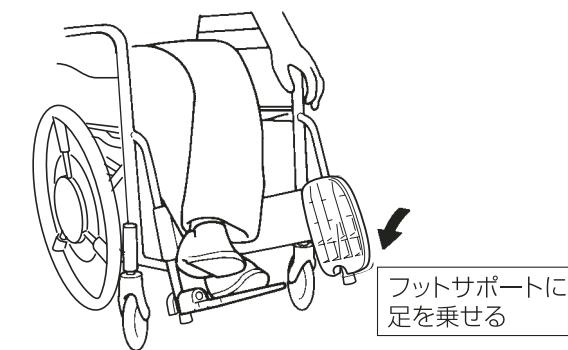
- \* フットサポートの上には乗らないでください。転倒し、けがをするおそれがあります。
- \* 上げたフットサポートに足が当たらないよう注意してください。けがをするおそれがあります。



- 3 車いすをしっかりと保持しながら、ゆっくり乗り移ります。

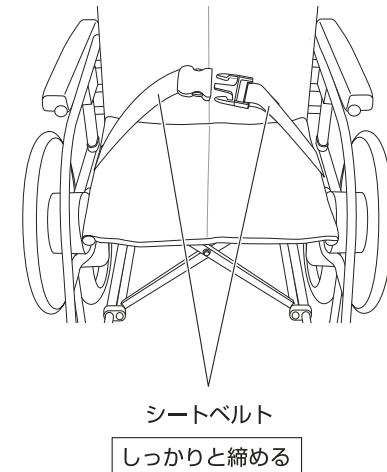


- 4 フットサポートを降ろして両足を乗せます。



- 5 シートベルト（オプション）を締めます。

- \* 体格に合わせてシートベルトを調整し、座位をしっかりと安定させてください。



## ● 降りかた

「乗りかた」と逆の要領で行なってください。

# 各部の調節のしかた

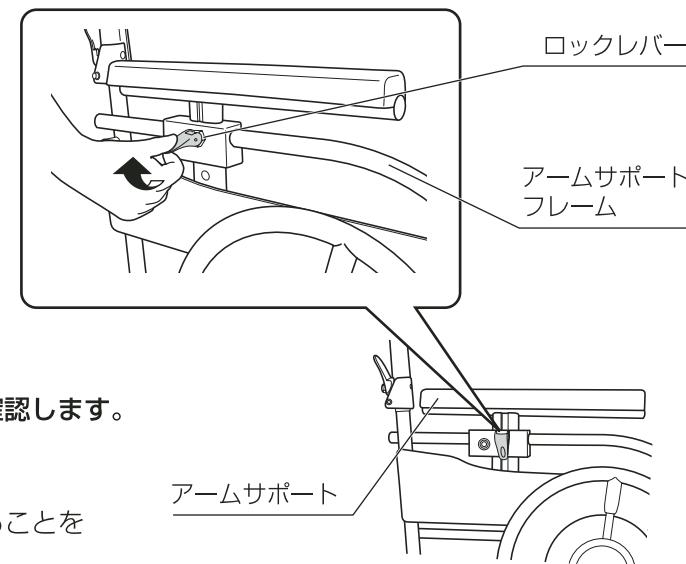
△警告 各部の調節は必ず駐車用ブレーキをかけてから、平坦な場所で行なってください。

## アームサポートの高さ調節

△注意

- ・高さ調節をした後は、必ず固定されたことを確認してください。
- ・調節中にアームサポートが下がり、アームサポートフレームとアームサポートの間に指をはさまないよう注意してください。けがをするおそれがあります。
- ・アームサポートを持って車いすを持ち上げないでください。

1 駐車用ブレーキのレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。



2 ロックレバーを引いてロックを解除します。

3 アームサポートの高さを調節し、希望の高さでロックレバーを押し下げます。

4 ロックレバーがいっぱいまで下がり、アームサポートが確実に固定されていることを確認します。

\*反対側も同様に調整してください。

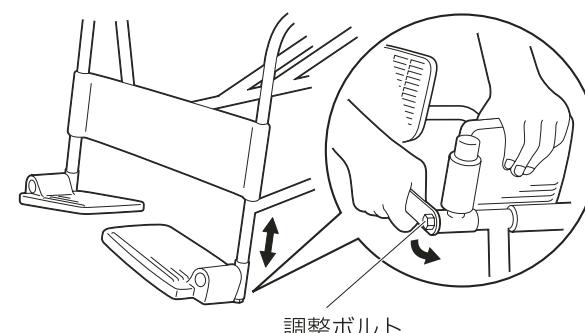
\*調節後、アームサポートがしっかりと固定されていることを確認してください。

## フットサポートの高さ調節

使用者に合わせて、フットサポートの高さを適切な位置に調節してください。

使用工具：13mmスパナ

1 駐車用ブレーキのレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。



2 フットサポートの裏側の調節ボルトをスパナなどでゆるめます。

3 使用者の足に合わせ、フットサポートの高さを調節します。

4 調節を終えたら、調節ボルトを締め付けて固定します。

\*反対側も同様に調整してください。

\*フットサポートが回転せず、しっかりと固定されていることを確認してください。

△注意 フットサポート下面是地上より50mm以上あげた状態で使用してください。

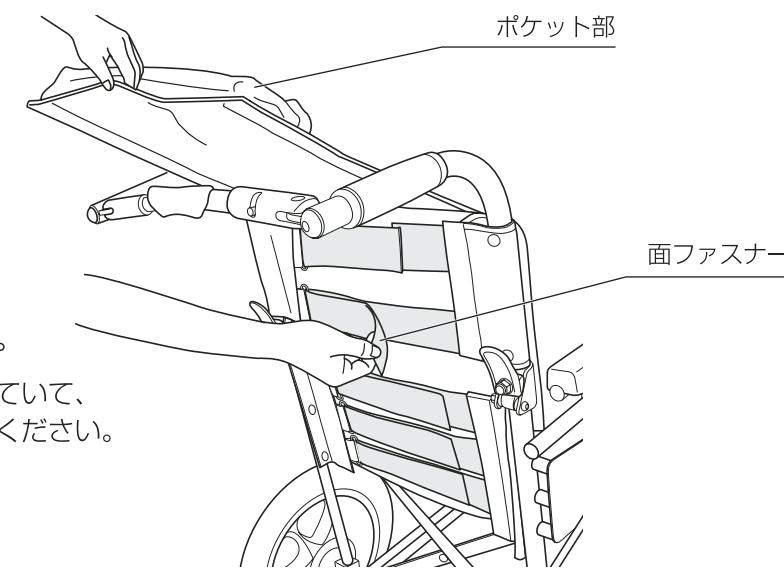
## バックサポートの張り具合調節

△注意

- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。
- ・面ファスナーの張り具合を過度に強くしますと、充分に車いすが開かなくなり、フレームの変形の原因になります。

\*背シートの張り具合を隨時チェックし、必要に応じて調節してください。

1 駐車用ブレーキのレバーを下げて、両輪のブレーキをかけます。



2 ポケット部をめくり上げます。

3 面ファスナーをはがし、背シートの張り具合を調節した後、もう一度面ファスナーをしっかりと貼り合せます。

\*手で背シートを押し、確実に固定されていて、張り具合が適切であることを確認してください。

4 ポケット部を元に戻します。

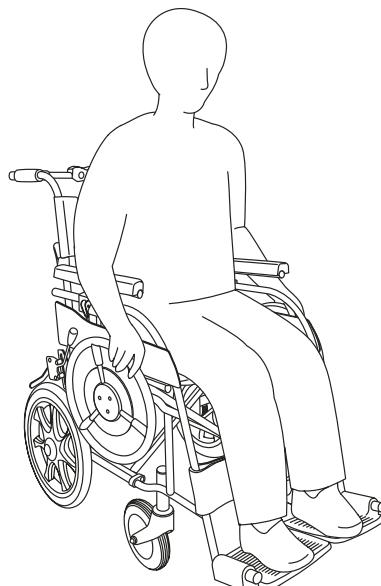
# 操作のしかた

室内向け自走タイプになります。屋外で使用される場合は、手押しハンドルを利用して介助者が操作をおこなってください。

△危険	<ul style="list-style-type: none"><li>・自走用であっても自力で操作不可能な坂道では、介助者を伴ってください。 下り坂において介助をする時は、後ろ向きにゆっくり降りてください。 下り坂において自走の時は、自走用ハンドルを使い、スピードを落とし、必ず前向きで降りてください。 不安な場合は助けてもらってください。</li></ul>
-----	---

△注意	<ul style="list-style-type: none"><li>・走行中、足がフットサポートからおちないようにしてください。</li><li>・走行中、身体を乗り出さないでください。 走行の安全を損ない危険です。</li></ul>
-----	--

- 1 駐車用ブレーキのレバーを上げて、両輪のブレーキを解除します。



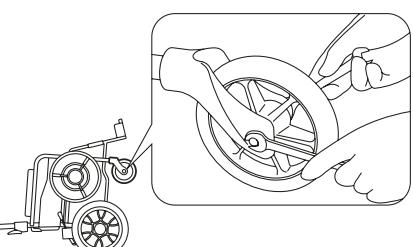
- 2 前進したい場合は、左右の自走用ハンドルを前方へ回してください。  
後方へ回すと、後進します。  
転回したい場合は、転回したい側の自走用ハンドルを進行方向へ回してください。

# 使用上のご注意

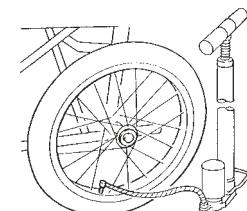
## 保守・点検

乗車前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。

- \* 修理・調整は必ず販売店へ依頼してください。

△警告	<p>キャスター・駆動輪・ブレーキ等のゆるみを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。</p> 
-----	--

- ・タイヤの空気を自転車と同じ要領で補充してください。長時間使用しなくても空気は抜けていきます。空気が抜けた状態で使用すると、タイヤやチューブを傷め、破損する恐れがあります。  
(タイヤの空気圧はタイヤ側面に明記されています。)



- ・ブレーキの効き具合が悪いときは、タイヤの空気圧を調整してください。それでもブレーキの効き具合が悪いときは、販売店に調整の依頼をしてください。

- ・パンクのときは、販売店または最寄りの自転車店におたずねください。また、パンクしたまま乗らないでください。

- ・使用者の脚の長さに合わせて、フットサポートを適切な高さに調節してください。  
(地上より 50mm 以上あげてください。)

- ・車いすは熱気、湿気に弱いため、湿気の多い所、屋外、自動車内での長期放置や、水のかかる場所には放置しないでください。

## ● 消耗品、交換部品の確認

△注意	交換時期を過ぎての使用は、転落、転倒、衝突などの事故につながる恐れがあります。
-----	---

それぞれの部品が交換時期になったときは、お早めに交換してください。  
新しい部品に交換する際は、お買上げの販売店へご連絡ください。

## 消耗品・交換部品

品名	交換時期
タイヤ	タイヤの表面に溝がなくなつたとき。
キャスター	表面の摩耗が著しいとき。しっかりロックしても車輪ががたつくとき。
シート	ほつれ、切れ目が発生したとき。 ひどく汚れたとき。
駆動ベルト	著しい緩みが発生したとき。

## お手入れ・保管について

### ● フレームのお手入れ

- ・フレームの汚れは、タオルかスポンジに中性洗剤を含ませて拭き取ってください。拭き取った後は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・水などがかかった場合は、乾いた布で水分を取り除いてください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

### ● シートのお手入れ

- ・シートが汚れた場合は、中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取った後、水で濡らした布で洗剤を拭き取り、乾かしてご使用ください。
- ・面ファスナーに糸くず、汚れ等がついた際は、接着が弱くなりますので取り除いてください。

### ● アームサポート、グリップ等の樹脂部品のお手入れ

樹脂部品の汚れは中性洗剤で落としてください。

△注意	シンナー、ベンジン等の溶剤は使用しないでください。製品を傷める恐れがあります。
-----	---

### ● 保管・収納について

- ・収納スペースが少ないとときは、座シート、バックサポートを折りたたんで保管してください。
- ・錆やタイヤのパンクを避けるため、湿気の高い場所や室温の上がる場所には保管しないでください。

## 使用上のご注意

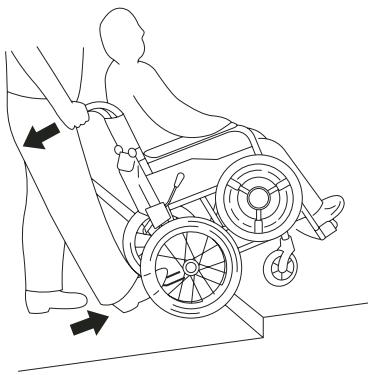
### 走行上のご注意

- 車いすは歩行者として扱われています。車道を走行せず、必ず歩道を走行してください。
- 歩道の段差や凹凸のある路面を走行するときは、前のめりにならないよう充分注意してください。
- 溝や踏切の線路による落輪、キャスターの挟み込みには充分注意してください。
- 踏切を通過するときは、まわりの安全を確認した上で、停車せずに通過してください。
- 傾斜地ではスピードが出やすいため、走行には充分注意してください。



### 段の上がりかた

- 1 足元のテッピングレバーを押し出し、手押しハンドルを手前に引くようにして、キャスターを段の上にあげます。



- 2 駆動輪を段に突き当て、車いすを押しながら手押しハンドルを持ち上げます。

\*無理な力による段差の乗り越えは、フレームの破損につながります。

### 車いすに乗ったまま持ち上げる場合



**警告** 持つ箇所によっては破損や事故につながる恐れがあります。アームサポート、背折れジョイント、レッグパイプ、フットサポート、自走用ハンドルなどは持たないでください。

車いすに乗ったまま持ち上げるときは2人以上で行ない、使用者の上半身を支え、フレーム下部を両側からしっかりと持って持ち上げます。



### 段の下りかた

手押しハンドルとティッピング部分で車いすを支えながら、ゆっくり段を下ります。

\*無理な力による段差の下りかたは、フレームの破損につながります。

\*段差のあるところを下るときは、車いすに衝撃を与えないように、ゆっくり下ってください。車いすの破損や故障の原因となります。

## 困った時には

車いすをご使用されていて『故障かな』と思われましたら、販売店へ連絡するまえに下記項目を確認してください。

症 状	確 認 点	対 処
車いすがまっすぐ走らない。 斜行する。	路面が傾斜していませんか。  車いすは、傾斜面では低い方へ前輪が流れる特性があります。	低い方へ曲がらないように車いすを操作してください。  <b>〈自走の場合〉</b> 傾斜面の低い側に当たる駆動輪をより強く回してください。  <b>〈介助者が押す場合〉</b> 傾斜面の低い側に当たる手押しハンドルに、より力を入れて押してください。
	駆動輪の空気圧の不足、また左右の空気圧に差がありませんか。	左右の駆動輪を適正な空気圧に調整してください。
	前輪の回転に左右差がありませんか。 キャスター軸の回転がスムーズですか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駐車用ブレーキが効かない。	前輪、駆動輪の計4輪がきちんと接地していますか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	駆動輪の空気圧は適正ですか。	駆動輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	駆動輪のタイヤは摩耗していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
駆動輪に空気がはいらない、すぐにぬける。	駐車用ブレーキのタイヤ抑えが駆動輪にきちんと当たっていますか。 駐車用ブレーキがガタついていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	適正な空気圧で補充していますか。	駆動輪を適正な空気圧に調整してください。 適正空気圧はタイヤ側面に記載されています。
	トップナット（コア押さえ、バルブナット、バルブスリーブ）が緩んでいませんか。	締め付けてください。
異音がする。	タイヤチューブのパンク、バルブの消耗はしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	本体や車輪とオプション品、アクセサリーなどの干渉はしていませんか。	車いすに取り付けて使用するカバンなどは車輪など回転する箇所と干渉しないようにしてご使用ください。
	可動部分の錆び・摩耗・汚れ・油切れなどによっておこる摩耗音がしていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
車いすが開かない。	ボルト類の緩み等がおきていませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	フレームに歪みが発生していませんか。	お買い上げの販売店へ修理をご依頼ください。
	バックサポートの張り具合を締めすぎていませんか。	バックサポートの張り具合を調整してください。